

# すくわくプログラム活動報告書

ミルキーホーム南大泉園

日にち	クラス	テーマ(テーマ設定理由)
2025.10.1(水)	2歳児クラス(12名) 3歳児クラス(14名) 4歳児クラス(16名) 5歳児クラス(12名)	<b>食育劇「りょうたくんと野菜博士の大冒険！野菜星を救え」</b> (各クラスの夏野菜栽培の締めとして、何でも食べる大切さを伝える為)
<b>活動スケジュール・実施内容</b>		
<p>(8:00園到着 搬入 舞台設置 音響設置・8:30リハーサル・9:45会場・10:00開演・11:00終演・11:30反省会)</p> <p>8:00に劇団員到着し、準備も問題なくすすみリハーサルへ。会場入りした子どもたちは期待に胸を躍らせる。開幕し、司会の言葉に耳を傾け真剣な面持ちで集中してきくことが出来ていた。</p> <p>夏に各々のクラスで栽培した野菜を思い出しながら、クラスでの子ども会議で上がってきた疑問を問いにし、人形「とまっぴー」や、「野菜博士」へ年長の代表者2名が前に出て質問。「メロンとスイカはなんで野菜なの?」「トマトに色んな色があるのはなんで?」問いに関して、子どもたちと一緒に考える方法で答えに導いていた。野菜博士からの「トマトにはどんな色があるか知っている人?」の問いに、「緑!!」などと応える姿もあった。食育劇がすすみ、怪物「ベジゴラス」が野菜星の野菜を荒らしてしまう場面では、感情移入して泣く子もいたが、主人公りょうたくんが本物の野菜を食べ、ベジゴラスを改心させる姿を見て、笑顔になる様子がみられた。最後は野菜体操で体を動かし終了。今回のお芝居で強いメッセージ性があった「食べ物を大切に」という思いは、しっかり実演されていた。</p>		
<b>実施結果</b>		
<p>食育劇後、各クラスで様々な感想が出た。「人参をポリポリ食べてて美味しそうだった」「ナスを保育園で育てたけど、りょうたくんが美味しそうに食べていたからまた食べたい」など、本物の野菜を子どもたちの目の前で食べていたのは印象が強かった様子。</p> <p>また、年長組では、子ども同士質問大会が始まり、「いちごは野菜でしょうか、果物でしょうか?」「それはなぜでしょうか?」の振り返りや、「たけのこってなんで山に生えてるの?」「卵は野菜?果物?」など、新たな探求が始まっていた。</p> <p>食育劇の様子を、お迎えに来た保護者へ嬉しそうに話す姿も多々見られた。</p>		
<b>評価・反省</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・泣く子がいたのでベジゴラス等の登場を事前に周知すればよかった</li> <li>・2歳児には、子どもたちからの質問に対しての説明が長かったように感じる</li> <li>・延期になる場合の食育がある場合は、事前にその可能性があることを周知しておくべきであった</li> <li>・発達障がい児など、特性のある子がパニックを起こすことを事前に予測できたので、対応策がもっと考えられた</li> <li>・本日の活動前に、野菜のエプロンシアターなどで気持ちを盛り上げて興味をひく導入をしてもよかった</li> </ul>		
<b>準備物・環境設定</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーティション</li> <li>・机4台</li> <li>・マイク</li> <li>・観覧席</li> </ul>		

# すくわくプログラム活動報告書

ミルクィホーム南大泉園

日にち	クラス	テーマ(テーマ設定理由)
2025年 8月~12月5日(金)	ゆりぐみ(年長) 12名	ゆりぐみ水族館を作る。 (室内図書にある海の図鑑が人気。海の生き物に興味関心を持ち、特徴や暮らしに気づき、それをもとに素材や技法を工夫しながら水の世界や生き物を自由に表現してほしい)

## 活動スケジュール・実施内容

年長クラスでは室内図書の海の図鑑を楽しむ環境にある。

**8月下旬** クラスの子ども会議にて好きな魚を作ってみようということになり、身近な折り紙、画用紙、雑紙、絵の具などを使用し、図鑑を見たり、思い思いの色を塗ったりして魚の製作活動を楽しむ。

**10月中旬** 再度子ども会議でそれぞれが作ってみたいものを話し合う機会を設ける。前回より更に魚の名前に詳しくなり、『○○くんと一緒に一緒にアカクラゲを作る』、『カクレクマノミを作りたい』等、作りたいものが明確になる。プリンカップ、空き箱、オーロラ紙、カラーフィルム、カッティングシート、シャインテープ等、普段とは違う素材を見せると、「これでヒレを作る」、「この形クラゲっぽい」と、それぞれ作りたいもののイメージを膨らませていた。

**11月7日(金)** 年長クラスの遠足でサンシャイン水族館に出かける。館内見学では、魚の鮮やかな配色、イワシの大群がみせるうろこの煌めき、くらげの動きや透明度等、様々なものを目にし、図鑑で見ただけでは知り得なかった情報をたくさん吸収することが出来た。

**12月12日(金)** 11月下旬よりクラスで作あげた水族館に他クラスを招待。給食時には、室内を水族館レストランに見立て、海中の映像をスクリーンで流し、年中クラスと共にやさかなランチを食べた。

## 実施結果

図鑑を見る中で、不思議な模様に興味を持ったり、鮮やかな色を表現したいと、色鉛筆や、絵の具の色を混ぜたりしていたが、日常的に使用してこなかった素材を見ると、表現の幅が一段と広がり、カラーフィルムをカップにかぶせるのではなく入れ込むことで透明感を表現しようとしたりと工夫する姿が見られた。魚の造形への興味を深めるために、フィギュア型玩具を購入。並べて細部の違いを確認しながら自由遊びに取り入れていた。水族館に見学に訪れた際には、水槽に近づくとすぐに『タカアシガニ』、『アカクラゲ』、『ミズダコ』といった詳しい名前呼び、その動きをじっくり観察していた。イワシの回遊展示エリアでは、『なぜ皆同じ動きをするのか』、『数匹コブダイが混ざっている理由』、『回遊しているイワシの数』等、なぜ？どうして？が次から次に生まれ、展示の説明を読もうとしたり、帰って図鑑で確認しようとしたりする姿もあった。水族館で見たものをもとに、様々な素材で魚や水槽を表現しようすると、たこの足がとても長かったり、チンアナゴがすぐに砂の中にもぐれるように配置してあったり、クラス全員でイワシの大群を作って同じ向きで泳いでいたり、現地を見たことが大いに活かされたものになっていた。部屋に招いた他クラスに、それぞれが熱心に見どころやこだわりを話す姿が印象的だった。

## 評価・反省

事前に様々な素材を準備したことで、限られた種類の保育素材を使用するこれまでの製作に比べ、子どもたちの発想力が大いに活かされ、子どもたち同士の相談、見たものをうまく表現するためにはどうしたらいいのか作ってみて試す等の姿が見られた。水族館見学では水槽の前で、友だちと魚の名前を言い合ったり、特徴をみて何の種類か考察したり、展示の説明を読もうとしたりと主体的に楽しみ、水族館づくりではその体験をもとに、印象に残ったものの特徴が捉えられている作品が並んだ。連日楽しんで水族館を作り上げる年長児の姿に憧れ、完成した作品説明に聞き入る年中児の姿が見られたこともうれしく思う。この経験を来年の年長児にも活かしていきたい。

## 準備物・環境設定

・プリンカップ・空き箱・オーロラ紙・カラーフィルム・カッティングシート・シャインテープ・カラーポリ袋・折り紙・画用紙・両面テープ・ガムテープ・セロハンテープ・色鉛筆・サインペン・段ボール・はさみ・模造紙・新聞紙・絵の具・海の図鑑・魚フィギュア型玩具・プロジェクター・スクリーン・机  
 ・年長保育室に机や椅子を出し作品を飾る。・給食時、壁側にスクリーンを出しプロジェクターにて海の映像を投影。

# すくわくプログラム活動報告書

ミルキーホーム南大泉園

日にち	クラス	テーマ(テーマ設定理由)
2025年12月5日(金)	年長(16名) 年中(13名)	やさしいパンづくり (パンがが出来上がる前までをを知り体験することで食に興味関心を持つ)
<p><b>活動スケジュール・実施内容</b></p> <p>給食で提供されているパンがどのように作られているか知り、興味関心を持つ機会を作った。はじめに、給食を提供している業者『ミールケア』の担当者からパンが出来るまでの流れを聞いた後、強力粉と薄力粉を触って比べたり、イースト菌の匂いを嗅いだりする観察の時間を設ける。その後一人3色(むらさきいも、かぼちゃ、ほうれんそう)の生地を使ってパンを成形。麺棒やスケッパーを使用しながら思い思いの形のパンを作りあげた。園給食室のオーブンを使用し焼き上げ、おやつ時間に提供。焼きたてを食した。</p>		
<p><b>実施結果</b></p> <p>実施日2週間前に色付けした小麦粉粘土を使用し、パン作りの導入を行う。個人で所有し使用している粘土との感触の違いを感じながら3色を混ぜたり、使い分けたりしながら、日頃食しているパンの形状をイメージして作り上げていた。当日を迎えるまでにパンの作り方や世界のパン、パンをテーマにした絵本等を見て過ごしてきたことで『イースト菌』、『発酵』といったパンづくりに使用される言葉の意味を理解する子も見られた。実際にイーストを混ぜた強力粉生地と、薄力粉生地を比べると匂いから「こっちはパンの匂い」、「こっちはこの間の小麦粉粘土の匂い」と嗅ぎ分けたり、ちぎってまとまりやすさや弾力の違いを感じたりしていた。イースト菌の匂いを嗅ぐと「納豆みたい」との感想があり、近くの席の子と「どちらも発酵だからね」と納得し合う様子もあった。パンの形成では、生地が程よい弾力の状態で扱いやすかったことで、べたつきを気にすることなく、『メロンパン』、『かめ』、『お花』等、それぞれのイメージを形にすることが出来た。午後おやつに焼き上がったものを提供されると、形成時の二倍以上に膨らんでいたことで、発酵の早さに驚くとともに、自分で作ったものを食べる喜びを感じていた。</p>		
<p><b>評価・反省</b></p> <p>今回のパンづくりでは、作る・食べる体験にとどまらず、子どもたちが物の性質を考えたり、違いに気づいたりする活動になった。3色の生地を使って形成する場面では、「のびる」、「ちぎれそう」、「重たい」等、感じたことを確かめるように何度も触りながら試す姿が見られた。自分で考え、工夫しながら形にしていこう過程そのものが、食材への関心を深める学びにつながっていたように感じる。焼きあがったパンをみんなで味わうことで、『自分たちが作ったものを食べる喜び』や『食べものができるまでの過程』への理解が深まり、食育として大切にしたい探求心や感謝の気持ちを育む機会となった。</p>		
<p><b>準備物・環境設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小麦粉・イースト菌・パン生地・麺棒・スケッパー</li> <li>年長年中混合、四人一組で席に座る。</li> <li>机にラップ、床にビニールシートを敷く。</li> </ul>		

# すくわくプログラム活動報告書

ミルキーホーム南大泉園

日にち	クラス	テーマ(テーマ設定理由)
2026年1月9日(金)	年長ゆりぐみ13名	<b>鮭の解体</b> (命のつくりや食べ物の成り立ちを実際に見て感じる体験を通して、食への関心を深める。)
<b>活動スケジュール・実施内容</b> ・1/7(水) ホワイトボード、イラストなどを使用し、鮭の一生について知る。鮭の遡上時の様子、成長過程での色の変化、泳ぐ距離に興味を持った様子。 ・1/9(金) 年少児・年中児は捌く前の鮭を見学。そっと触ってみる。年長児は保護者とともに、食育業者『ミールケア』担当による鮭の生態説明の後、解体を見学。取り出された内臓の説明を聞き、観察。捌く様子、ホットプレートで焼き、ちゃんちゃん焼きになる過程を見た後、給食として食す。 ・1/13(火) 解体時撮った写真を見ながら八つ切り画用紙に鮭の絵を描き、見る前の予想と比べたり、思っていたのと違ったところ、心に残ったことなどを話し合った。		
<b>実施結果</b> 夏よりすくわくを利用し海の生き物について興味関心を持ち活動に取り入れてきた年長クラスで実施。11月に遠足で水族館に行ったり、共同作品で水族館を製作したりしたことから魚への造詣が深く、成長過程にて居住場所や色味が変わることや、長い移動距離等に興味を持っていた。特に生まれた川へ遡上するという生態に強く関心を示し、『岩の形をおぼえているんじゃない?』、『海の色でわかるんじゃない?』と迷子にならない訳を考察していた。解体当日、ビニール袋越しにそっと触れ、うろこのザラザラ感を感じていた。解体が始まり、腹側から内臓を取り出すと「かわいそう」、「小さい」、「血が出てる」等、それぞれ感じたことを言葉にしつつ、興味深く見守っていた。体表にうっすら赤い模様がかった為、遡上間際の鮭なのではないかとの予想も聞かれた。解体が進み、切り身になると、スーパーなどで見知った形になったことから、「おいしそう」との感想が出始めた。ホットプレートで調理が進む間、幼児クラスで順番に解体した内臓を観察する。口の中をのぞき、舌歯を間近でみて、人間の舌との違いに驚いていた。『いただきます』には命に感謝するという意味が含まれていることをよく理解して食す姿が見られた。翌週、解体前の写真参考にして画用紙に模写した。ざらざらした小さな鱗を細かな点で描いたり、銀色の体表にわずかに見える赤みや黄色みを発見し、クレヨンで色を混ぜたりと見たものを表現しようと工夫する様子が見られ		
<b>評価・反省</b> 鮭の内臓を見て『苦手』、『怖い』と感じる子いるかもしれないと想定していたが、解体中は全員集中して見入っていた。特に印象的だったのは、心臓が取り出された際、「思ったよりずっと小さい」、「三角なんだね」等、見た目の感想を言い合う中で、「ドクドク動いている?」という子に対して「もう死んじゃってるから動いていないんだよ」と隣の子が返答している姿だった。解体し、内臓を取り出す様子を見ることで、命をいただいているということを子どもたちなりに感じ取ることが出来ていることを実感した。また、目の前で時間をかけて丁寧に骨抜きをする様子を見たのにも関わらず、食す際に小骨が見つかったことで、給食で骨なし鮭が提供されるまでに手間がかかっているという気づきが自然と生まれたこともよかった。今回保護者参加型にしたことで、園と、家庭が食育を共有する良い機会となった点は大きな成果であった。		
<b>準備物・環境設定</b> ・鮭(冷凍したものを一日冷蔵庫で緩慢解凍)・調味料・野菜(人参・キャベツ)・ホットプレート・出刃包丁・まな板・ボール・トレイ・箸・皿・ビニールシート・新聞紙・机・椅子・画用紙・色鉛筆・鉛筆・クレヨン		

# すくわくプログラム活動報告書

ミルキーホーム南大泉園

日にち	クラス	テーマ(テーマ設定理由)
2025年 7月 17日(木)	ゆり組 11名	<b>3種のとうもろこしの食べ比べ</b> (夏野菜の栽培でとうもろこしを栽培し、うまくいかなかった事から興味を持った為)
<b>活動スケジュール・実施内容</b>		
<p>当園では毎年幼児クラスが園庭隅の畑で野菜を育てている。今年度5歳児クラスは5月よりとうもろこしの栽培を始めた。図鑑で育て方を調べ、苗を植え、水をやってきたが、思ったように育たず、7月現在も実がなっていない。実施日前日、届いたとうもろこしの大きさや量に驚くとともに、翌日の食べ比べへの期待が高まった様子。当日はミールケア担当者(給食委託業者)を招き実施。初めにとうもろこしから想像される料理、調理法などを考え意見を出し合った。とうもろこしの品種の数や今日食べ比べる3種類の名前や色の特徴を知ったあと、皮むきを行う。毎年、食育活動の一環で、全クラスとうもろこしの皮むきを実施していることもあり、皮むき経験はあったものの、白いとうもろこしは初めてだった為、味を想像し楽しんでいった。給食室にて茹でてもらった後、午睡明けのおやつ時間に実食。ホットプレートを用いて、焼きとうもろこしにすることに。プレートから聞こえるわずかな焼き音に耳を傾けたりとうもろこしの甘い匂いを嗅ぎながら焼けるのを見守る。焼き目が付きだし、はけでしょうゆを塗ると、香ばしい匂いと立ち上る煙に一層盛り上がっていた。3種類のわずかな甘味の違いに気づき、周囲と好みの味を伝え合いながら、一口ずつ噛みしめるように食べていた。</p>		
<b>実施結果</b>		
<p>とうもろこしから想像される料理で意見を出し合うと、「ラーメンに乗ってる」、「バーベキューで焼いて食べる」、「ポップコーンが作れる」等、体験からの発言が聞かれた。品種の数を『60』と聞いて、「まあまあ多い」と身近な分量と比較したり、黄色の微妙な濃さの違いに気づき、『山吹色』と言いつけたりと、これまでの環境で獲得してきた数や色への表現の育ちが感じられた。同時に、図鑑にある黒い実のとうもろこしの味を想像し合い、「コーラ味じゃない?」、「苦いかもしれない」と、見たことのないものへ豊かな想像力からの発言があった。剥いた皮を使って遊ぶと、初めは絵や模様を描くだけだったものが、魚釣り、風鈴、船と徐々に立体的な作品に変わっていった。皮の繊維があることで描きにくいという感覚から繊維を活かした作品づくりに変化していったことも興味深かった。</p>		
<b>評価・反省</b>		
<p>とうもろこしの皮むきは園で毎年実施してきた食育活動であった為、子どもたちにも馴染みがあるものだった。特に今年度はクラスで相談し、畑で育ててきたこともあって前日から参加に意欲的な姿が見られた。当日は、外部の担当者主導だったことで緊張感を持ってのスタートであったが、名前からとうもろこしの色を想像したり、種類の多さを知ったりする中で、探求心が次第に膨らみ、担当者の言葉を興味深そうに聞いていた。食す際には、一粒ずつ味わったり、一気にかぶりついてその甘さを再認識したりと各々が楽しんでいった。</p>		
<b>準備物・環境設定</b>		
<p>・ホットプレート2台 ・トング ・3種のとうもろこし ・ブルーシート ・机 ・椅子</p>		